

特集

# 純真学入門 ～学園訓「気品」「知性」「奉仕」について～

福田 庸之助

純真学園大学 学長

Younosuke FUKUDA

President

Junshin Gakuen University

純真学入門においては、共通教育科目である純真学という体系の中で、純真学園大学で学ぶとはどういうことか、そして卒業後社会に対してどういうことを貢献していくかについて思考を深めていくことを目的としています。もちろん医療系専門大学としてそれぞれが目指す国家資格を取得していくことが一つの目標となることは間違いありませんが、今後予測不可能な時代に生きていくが故に基盤となる考え方について将来に亘り思索を深め学び続ける最初のステップを築いてもらえることを目的としています。具体的には、まずは建学の精神を学ぶために学園訓である「気品」「知性」「奉仕」について学びます。そしてその学園訓の背景と創設者の意図、そして求められる人物像について学んだ後、自分がこれから生きていこうとする社会についての知識を取得し、プロ意識や志、人生観、日本文化、国際理解についての講義を通して学園訓を基盤としてそれらの教養をそれぞれの中で咀嚼してもらうことを目的としています。本稿においては、様々な教養に対する理解のもととなる学園訓について純真学入門の中でどのように解説を行っているか、そして今後の社会におけるキーワードを拾いながら学園訓の重要性を再認識してもらうプロセスを記していきたいと思います。

## 1. 創設者について

### 1) 創設者の事績

学園創設者である福田昌子先生が生涯において果たした4つの業績について紹介をします。

第1に女性として史上最年少で医学博士号を取得していることです。その時のヒスタミンに関する博士論文は当時ドイツの学会誌においても取り上げられた程であり優秀な研究者であったことが伺えます。

第2に戦後女性参政権が認められた直後の第2回総選挙において社会党より出馬し見事に当選を果たしております。またその後5期10年間連続して当選を果たすという女性議員としての足跡を残しておられます。

第3に議員として多くの医療関連法案の立法化に尽力し、優生保護法の立法化、そして本学においても養成しております臨床検査技師の前身となる衛生検査技師法を議員立法において成立させるなど今日にまで続く医療職種の法的基盤を固めたことは夙に有名です。

最後に議員引退後、学校法人の理事長として現在に続く礎を築きあげ、学園訓である「気品」「知性」「奉仕」の精神を体現する人物の育成にその生涯をささげた事です。

以上の一つでも常人には成し遂げることが困難と思えることを不屈の精神力で成し遂げてこられた福田昌子先生を顕彰すると共に、先生が目指した人物像についてその遺された言葉から探求していきます。

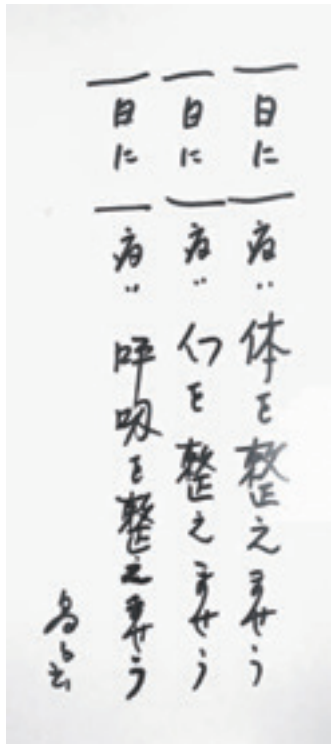
### 2) 創設者の願いと言葉

「清潔で温かく大らかな雰囲気の中で、その人その人のすぐれた天分を伸ばし、情操を豊かにし、

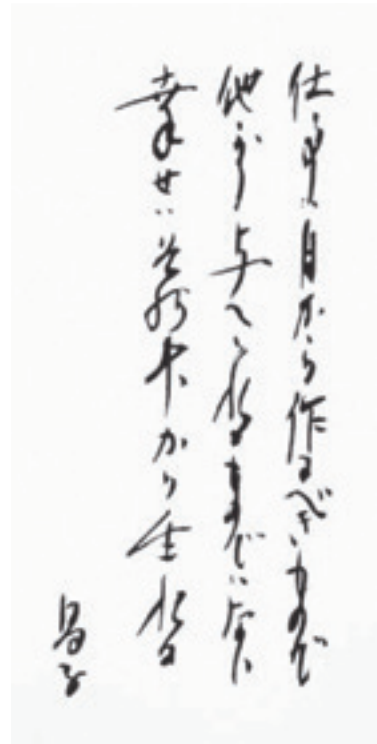
教養を高め、博愛の精神を身につけて、新しい時代の日本が要求する

気品高き、知性にすぐれた、しかも、真に社会に奉仕しうる人材を育て上げたい」

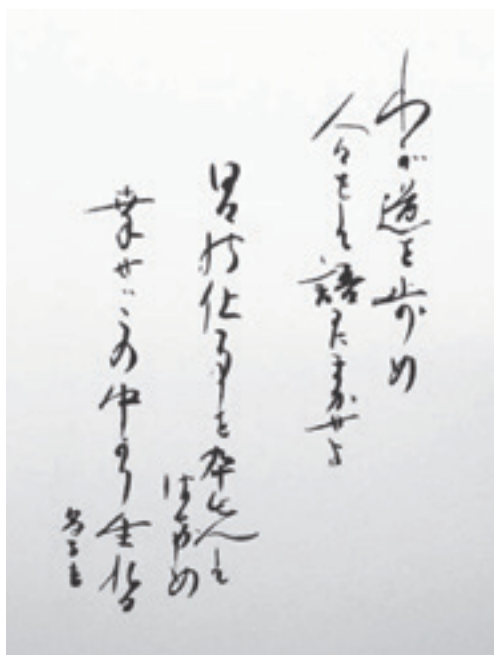
上記のような教育方針を掲げていた福田昌子先生ですが、短大のこども学科の先生方が紀要において発表されているように他にも言葉が残っています。ここでは、そうした残された言葉の端々から学園訓についての洞察を試みます。まずは資料の直筆の言葉（資料1・2・3・4）を紹介すると共に、昌子先生健康に対する考え方や仕事観、人生観等について生い立ちを絡めながら紹介をしていきます。その後昌子先生が残された教育方針の言葉から学園訓である「気品」「知性」「奉仕」の解釈へと話をつなげます。



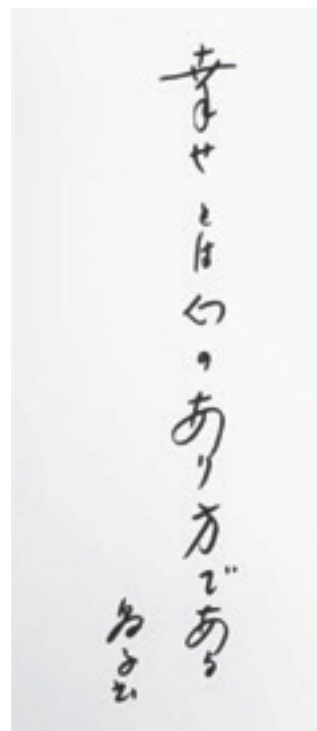
資料 1



資料 2



資料 3



資料 4

## 2. 純真学園の教育方針と学園訓

### 1) 教育方針

- ① 相互に相協働しつつ軽佻浮薄な態度を慎み、優雅で落ち着きのある言動を心掛けねばならない。気品を支えるものは洗練された情操と知性である。
- ② 現実に応じ、正しい判断を下すことの出来るのは広い視野と高い知性にほかならない。したがって知識を豊かにし、真理の追究に努力しなければならない。
- ③ 常に研鑽途上にあることを自覚し、謙虚に自己を見つめ自己満足に陥ることなく、小我を捨て、大我に徹する精神を養うことに心掛けなければならない。奉仕の精神は小我を捨てる事によって始まる。

昌子先生の時代を反映した言葉であるせいか、いささか表現的に抽象的であるきらいがあるため学園訓と併せて考えたときにそれぞれの関係性が分かりにくいという感じがします。したがって、上記の言葉を解釈しながら順次先生の意図されたことを考えてみようと思います。

まずは①から分かることは、「気品」とは

- ・態度と言動に注意して振る舞うこと
- ・気品は情操と知性によって支えられる

ということが分かります。したがって、学生諸君に対しては大学生活において態度と言動に注意することが重要であることをまずは伝えます。具体的には、ルールを守ること、礼儀を重んじること、人の立場になってものを考えること、きれいな日本語を使うこと、多様な価値観に触れることなどを意識していくことが大事であるということを伝えます。そうした意識を持ち、良書を読み、良い人物と交わることで己を磨くことで気品を身につけていけるようになるというのが私の考えです。そうした自己啓発を重ねることでバランスの取れた柔軟な考え方が身につくようになります。しかしながら、柔軟な姿勢は時として他人に良い顔を見せようとするあまり八方美人と言われかねません。そうしたリスクに対して大きな意味を持つのが2番目の気品は情操と知性によって支えられるという言葉であろうと思われます。それでは知性とはどういうことでしょうか。

②の言葉を見ていくと、「知性」とは要約すれば下記のようになります。

- ・正しい判断をするための源
- ・知性は広い視野と探求心からなる

大学というところで学ぶことの意味をここではしっかりと伝えます。知性を身につけるということに対して具体的には、日々の勉強（専門、語学、情報等）に励むこと、習慣を作ること、良く学びよく遊ぶこと、様々なことにチャレンジすること、他人へのリスペクトを持つことなどを伝えます。学業に励み、様々な経験を積み、常に好奇心を持ち続けることで専門性を高め教養を深めていくことができ、それがやがて個々の中にそれぞれの原理原則をしっかりと形成されることが知性を身につけるということであると私は考えます。本学での学びを通して「専門性に立脚した本質に対する洞察力と教養的視野の広さの両立」へと到達できることを期待しています。ただ、「知に働けば角が立つ」というように知を振り回すと偏狭な批評家のような事にもなりかねません。そこで③の言葉が重要になってきます。

③の言葉を見ていくと、「奉仕」の精神こそ知が過ぎることのリスクへの防波堤の役割を果たしていると感じます。要約すれば「奉仕」とは

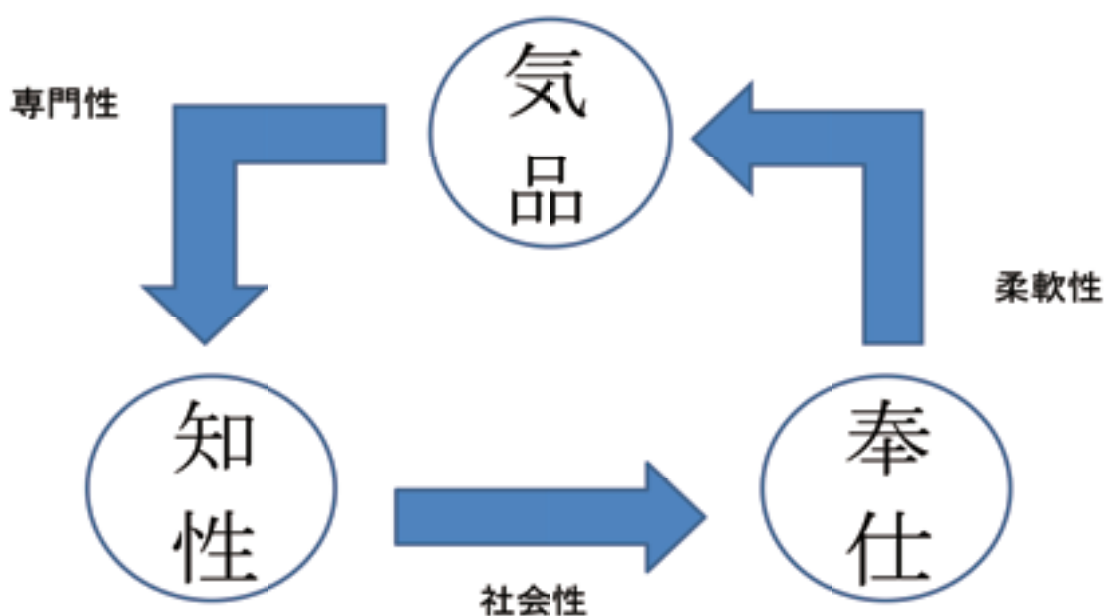
- ・自己研鑽と謙虚さ
- ・感謝と勇気

小我を捨て大我に徹するということの解釈は現代においては中々に困難です。意味としては学生にも理解できると思われますが、具体的な行動としてそれを規定することは実感が伴わないのではないで

しょうか？したがってここでは意識になりますが感謝と勇気という言葉に置き換えて話をしています。学生に必ず伝えているのは、自分がお世話になっている社会のために働くことが奉仕につながるという話をしています。特に学生生活を送る上では、両親との対話を大事にすること、実習・演習を通して医療人としての心構えを学ぶこと、質とスピードにこだわること、「公」を意識することなどを挙げています。そうした行動の根底に感謝の念と一步を踏み出す勇気を込めることで、学生の心に何がしかの志が芽生えより積極的に行動するようになることが奉仕という意味になるのではないかと私は解釈しております。大学という場所は、学生の中に志という社会貢献意識を芽生えさせることができる場所であってほしいということを常に願っております。

## 2) 学園訓「気品」「知性」「奉仕」

さて、このようにして昌子先生の遺した教育方針から学園訓の持つ意味を探って参りました。最後に奉仕という言葉の解釈を行いました。それでは我々の到達目標は奉仕なのでしょうか？自己啓発や知の探求においてもそうであったように人間とは弱い生き物であり、立志ということについても陥りがちなリスクがあると考えられます。それは独善的になるということであり、ややもすれば硬直的で他人の意見を聞かないという傾向が出てくることでもあると考えられます。その時にこそ教育方針の①で示された柔軟な姿勢に立ち返ることが重要だと考えます。つまり我々の到達目標は奉仕の精神の完成ではなく、「気品」「知性」「奉仕」というサイクルの中で研鑽を積むということにあると考えられます。したがってスタート地点はどこでもいいわけです。とは言え学生諸君には先ずは学業に努めるという意味で知性を身につけることに努めてもらいたいと思いますが、医療人として世に立つときに本学の学園訓が描くサイクルの中で生涯学び続けることを本講義では伝えています。



ここまでを第1講とし、第2講目ではこれまでやや観念的であった学園訓が目指す人材像をこれからの社会が必要とする人材像からとらえ直していくことにします。

## 3. 社会の中で学園訓を活かす

現代社会は今まさにパラダイムの転換に直面しております。これまでの価値観や成功法則が通用しない社会、先行きが全く読めない不安定な社会に直面する中で、どのようなことを拠り所としていけばよ

いのかを模索している時代ともいえます。そうした中であって、福田昌子先生が学園訓を遺された70年以上も前の時代とは大いにその状況が異なっているわけですが、果たして今の時代そしてこれからの社会においても本学の学園訓は通用するのでしょうか。第2講の中では、学園訓「気品」「知性」「奉仕」に集約される建学の精神が、決して古びることのないものであるということ、さらに言えばこのような時代であるからこそ必要とされる精神的支柱となりうる重要な考え方であることを見ていきます。

### 1) これからの社会における重要なキーワード

パラダイムの転換を考える上で、いくつかの重要なキーワードが存在します。2025年問題、グローバルゼーション、第4次産業革命、格差の拡大、個の弱体化といったことです。

#### ① 2025年問題

日本国民の3人に一人が65歳以上5人に一人が75歳以上になる超高齢化社会が到来します。同時に進む少子化と共に国内の人口は減少し、それにより若年就業者層が希薄になり高齢者層の就業支援が進むことになります。

#### ② グローバリゼーションと第4次産業革命

第4次産業革命による高度情報化社会の到来は多くの産業分野でドラスティックな環境変化を促すと考えられます。オックスフォード大学準教授のマイケル・オズボーン氏は人工知能に取って代わられる多くの職業を予測し発表しています。またこうした情報技術の進化は、国際的な情報流通の進展を可能にしグローバル化を促進させます。その結果、生産拠点の海外移転やネット上の決済手段の向上による仮想商店の誕生などにより国内の労働市場にも大きな変化が生じます。

### (ア) 格差社会

上記のような問題が進むと、高齢者層の雇用が若年層の労働環境を圧迫することが考えられます。また、多くの産業分野で情報技術が進むため、そうしたスキルへの対応が迫られると共に、労働条件の二極化が進み賃金格差や就業格差が拡大することが考えられます。少子化により大学進学者が増加し学位のダンピングが起こるため、学力やスキルを客観的に測ることができるような事態、例えば国家資格の取得や情報技術関連の資格取得等を目指す傾向が増えると予測されます。そうしたことに挑戦する金銭的余裕のない家庭においては貧困の連鎖へとつながり格差が固定化していく懸念が生じています。

こうした状況下で確実にパラダイムが変化しつつあります。それではこういった形でその変化は起こっているのでしょうか。旧パラダイムと新パラダイムでの変化を図に示して説明します。ここから見出せることは、これから要求される「学力」とは、変化の激しい社会で、課題を見出し、チームで解決するような能力（課題設定力、課題解決能力）や価値観の異なる相手とも真摯に語り合える対話力（コミュニケーション能力）、困難を乗り越える忍耐力、多様性を認める寛容性といったものが考えられます。それではそういった能力を身につけるためにはどのような学びが必要なのかを次に考えます。

### 2) 活学としての学園訓

SNSやインターネットの普及により昨今の学生は一昔前よりも価値観の多様化が進んでいると考えられます。それは特に海外からの情報流通が量質ともに増加したことに起因すると言えます。一方で、長く続く不況の影響により、将来への不安が強く考え方が保守的であり、情報に対しても興味や関心のあることにとらわれがちで、社会貢献意識は高いもののどのように行動して良いかわからないということが最近の若者の特徴だとも言われています。そうしたことを考えますと、これまでの経験則にこだわるのではなく、この日本に生きる我々国民すべてが勇気を持って変わっていくことが求められるのではないかと思います。つまり何が問題で、どのようにそれを解決していくのかという課題設定力や課題解

決能力、価値観の異なる相手とも恐れずに議論を進めていけるコミュニケーション能力や寛容性、失敗を恐れずチャレンジし続ける忍耐力、といった能力を身に付けることが必要であることは先に述べましたが、それぞれの能力を身に付けるためには以下のようなことが必要です。

① 課題設定力・課題解決能力

課題を設定し問題解決を図るには、社会情勢に関心を持ち、何故そうなるかを考える習慣や思考のベースとなる基礎学力や教養、課題解決に向けたコミュニケーション能力や企画力等が必要です。

② コミュニケーション能力

コミュニケーション能力に必要なのは、個人として信頼されるための人間的豊かさや相手の主張を理解し自己の考えを明確に伝えるための知識や教養が必要です。

③ 忍耐力

忍耐力に必要なのは、学生時代において様々なことに挑戦するチャレンジ精神や失敗体験です。

これらはすべて、先述した学園訓の解釈に含まれます。さらに、国家資格を持つ専門職として、これから厳しさを増す医療現場で活躍する人間には特に、必要不可欠な要素でもあります。気品を醸成するために必要な自己研鑽はコミュニケーション能力の基礎となる人間性への信頼の源です。また、知性を身に付けるための学業や教養、知的好奇心こそ様々な問題解決につながるパズルのワンピースです。そして最後まで忍耐強く取り組むためには感謝や勇気、志が必要でありこれこそ奉仕の精神の源になるものでもあります。活学とは、学んだことを知識のみに留めず、知恵として発展させ、実践し、社会に活かす生きた学問だと言われています。多様化する価値観や変わり続ける社会情勢の中だからこそ、高い志を見出し、自らの人生や社会貢献につなげる力を醸成することが大学教育の役割です。

こうして見てくると学園訓に示される人物像は、この変革の時代にあっても古びることのない精神的支柱であると考えます。このように現代社会のパラダイムシフトの問題を通じて学園訓を考えるとともに、これから学生が純真学園大学で学ぶことの意義と純真学の一連の体系の概略を説明してわたくしの講義は完結いたします。

### 3) 今後の課題

以上のように、学園訓に込められた建学の精神についての解釈と現代社会で求められる資質と能力について学生に説明をしてきましたが、こうした形態の話はどうしても一方通行になりすべての学生を積極的に関与させるにはいたしません。グループ発表やポスターセッションのような形態も人数的にかなり難しいのが現状です。また昨今の教育的風潮として情報化に対する教育重視の一方で教養科目軽視の傾向があるように感じます。特に学生自身の教養への理解を開くことが後々その人間的魅力を増すことになることを教職員一丸となって伝えていくべきと考えます。純真学関連科目6科目からなる純真学はまだまだ未完成ではありますが、これからも進化し続けていくと考えます。